

# キヤノンにおける化学物質管理と P R T R法への取組み

キヤノン株式会社  
環境統括・技術センター環境管理部  
脇田 邦夫

# キヤノン環境憲章

## 企業理念「共生」

世界の繁栄と人類の幸福のために貢献すること。

そのために企業の成長と発展を果たすこと。

# 環境保証理念

世界の繁栄と人類の幸福のため、資源生産性の最大化を追求し、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する。

# 環境保証基本方針

すべての企業活動において環境と経済の一致をめざし(EQCD思想)、資源生産性の革新的な改善により、“グリーンな製品”を提供するとともに、人の健康と安全、そして自然環境を脅かす反社会的行為を排除する。

# EQCD思想

- E:Environment (環境保証)  
環境保証ができなければ**作る資格**がない
- Q:Quality (品質)  
品質が良くなければ**売る資格**がない
- C:Cost (コスト) }  
• D:Delivery (納期) }  
コスト、納期が達成できなければ**競争する資格**がない

# CIMSによる化学物質管理

# CIMSとは

(Chemical substances Integrated Management System)

全社で使用されている化学物質のデータベース機能と、化学物質の環境中への排出移動量管理機能を一体化させた統合管理システム

2001年開発、2002年4月運用開始

# CIMS導入の目的

97年より運用していたデータベースシステムと、後から開発した排出移動量管理システムを一体化し、すべての機能をWEB環境で実現



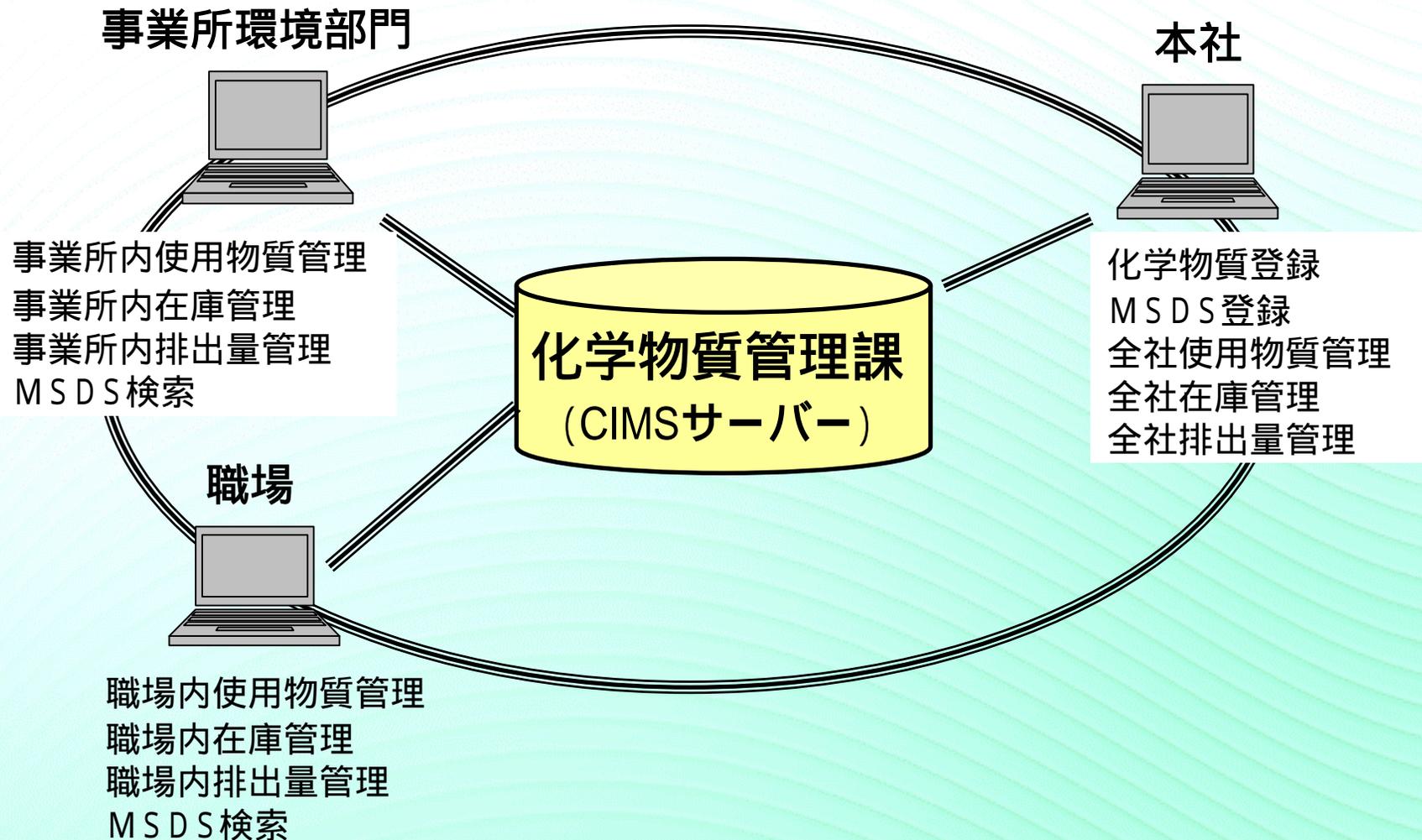
社内ネットワークに接続されたPCなら専用ソフトのインストール不要で利用可能

グループ共通の認証システムによるアクセス制御

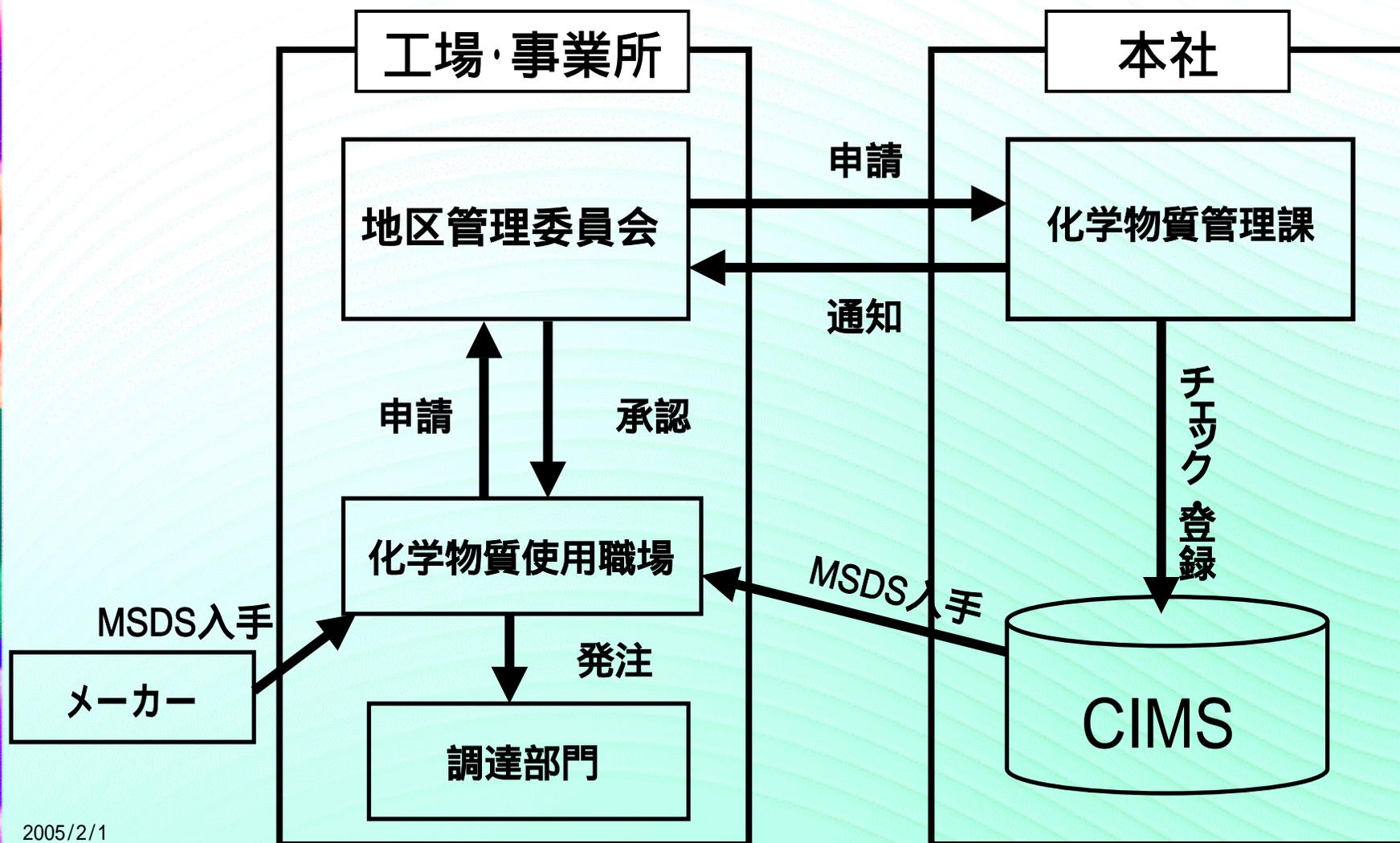
# CIMSの主な機能

- 使用商品の登録
- 商品、成分、含有率、CAS番号、法規制情報の検索・表示
- 登録番号発行
- 在庫管理
- MSDS管理
- 排出移動量管理

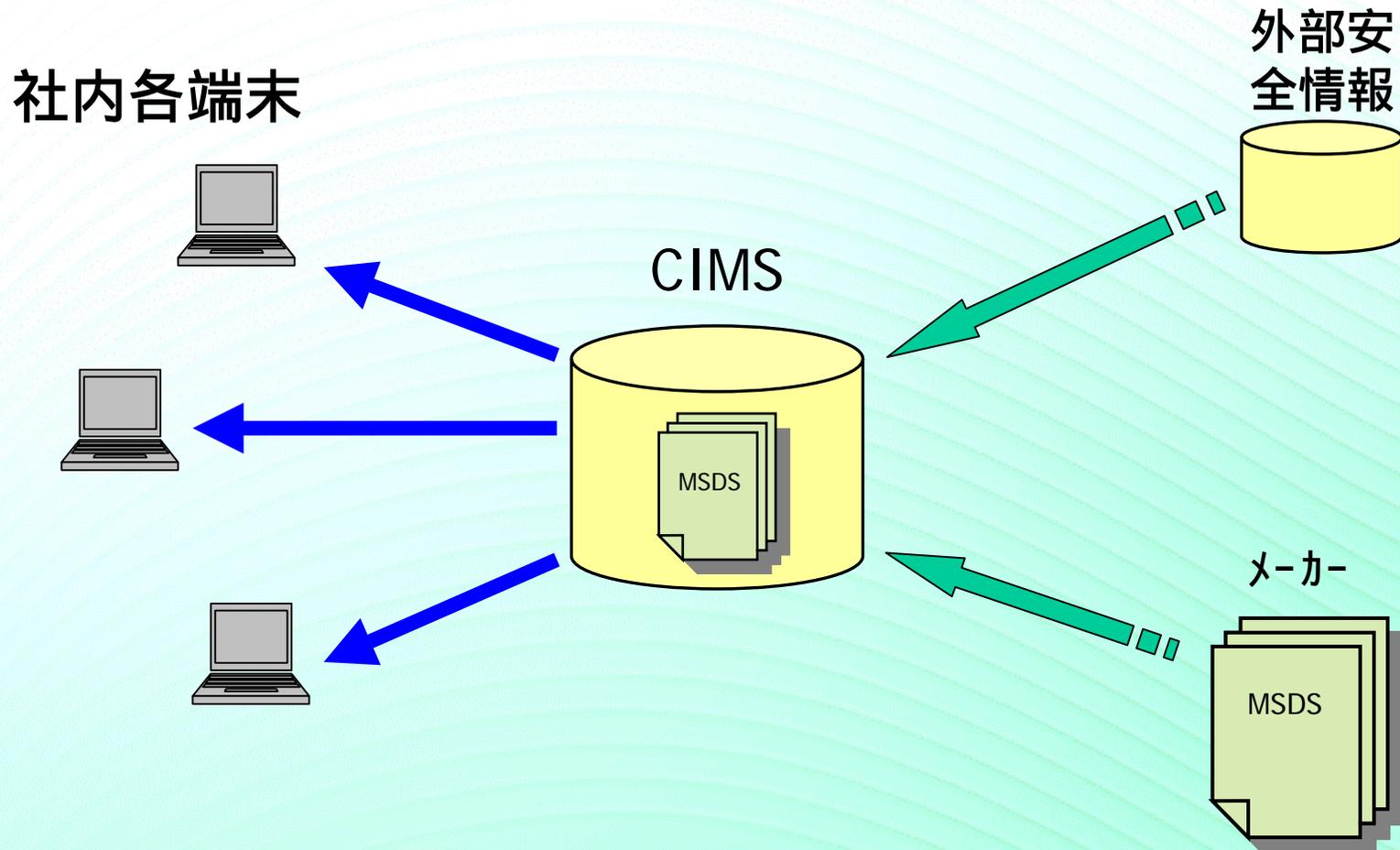
# CIMSによる総合管理



# 化学物質使用時の審査フロー



# CIMSによる効果的MSDS管理



# CIMSによる効果的MSDS管理

社内各社



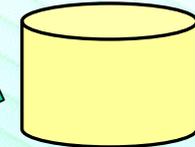
## ➤ 情報精度向上

- 法改正
- 有害性知見
- メーカー間格差解消

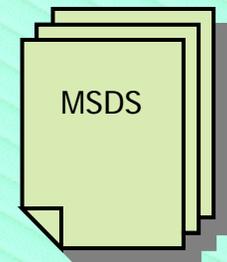
## ➤ 情報共有化

- 重複請求防止
- 改訂情報共有

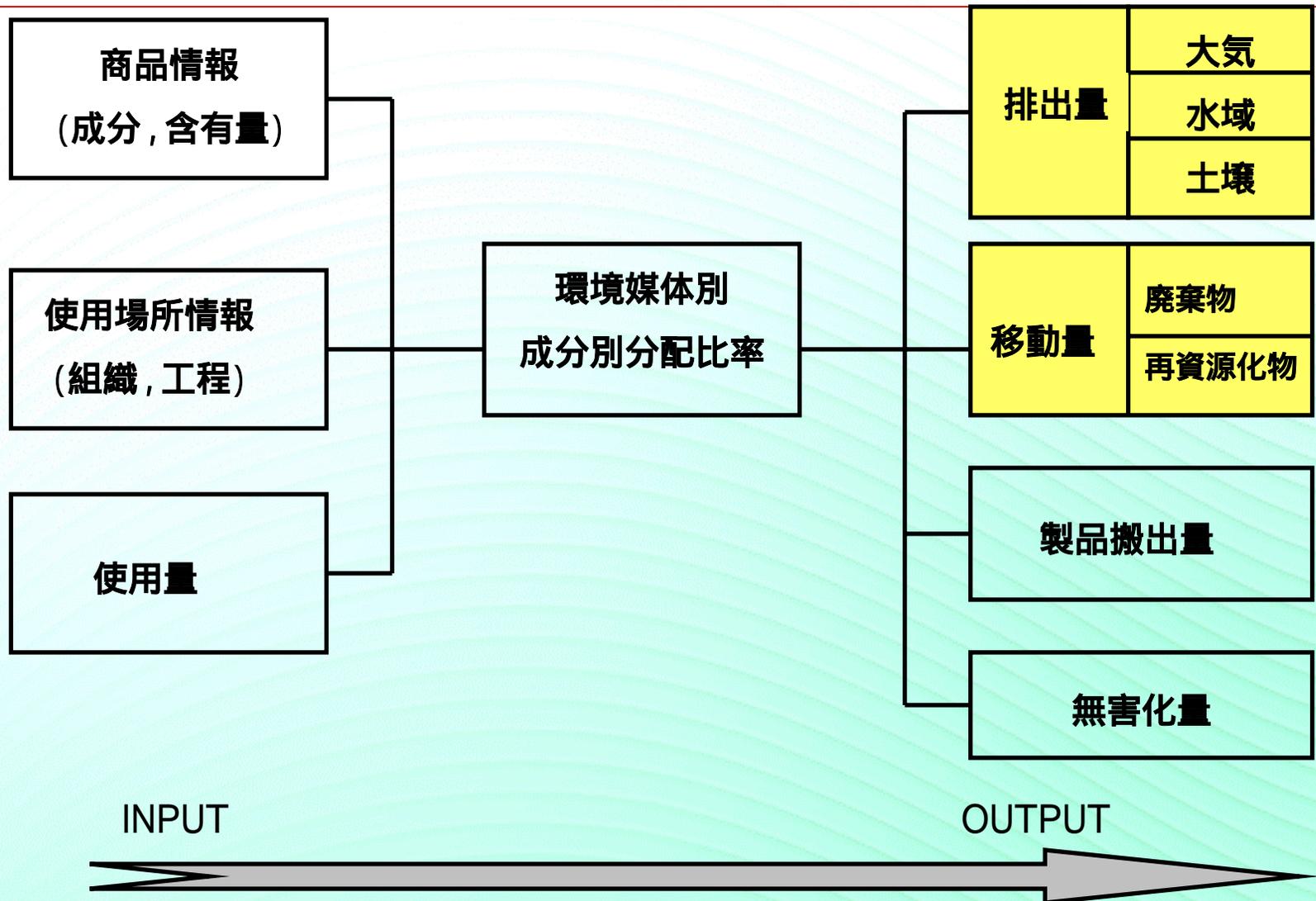
外部安全情報



メーカー



# CIMSを用いたPRTTR管理の例



# 有害物質排出量の削減

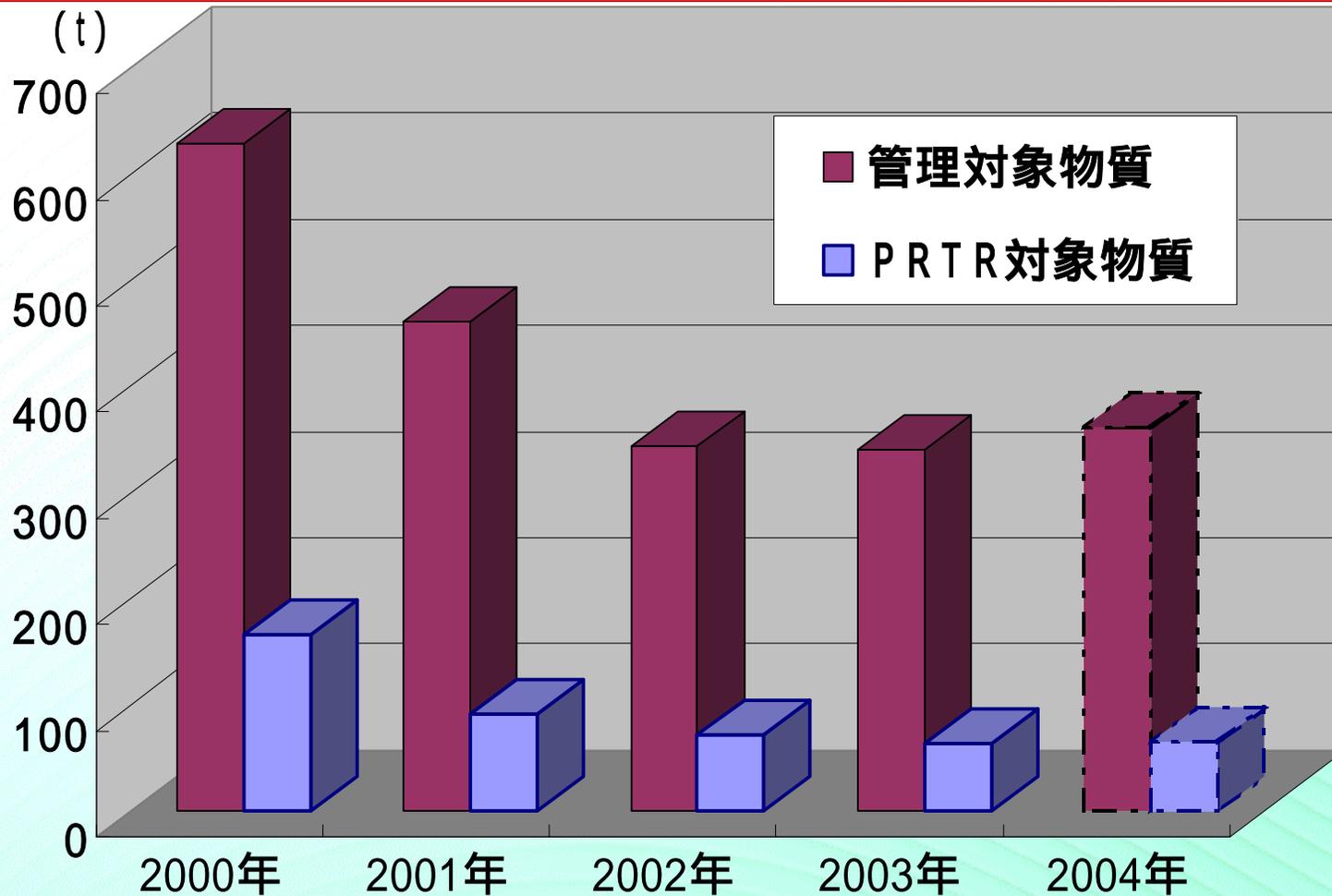
# キヤノンの排出抑制対策と PRTR法との違い

- キヤノン
  - 対象 約2200物質
  - 使用量の裾きり 0.1t/年
- PRTR法
  - 対象 354物質
  - 使用量の裾きり 1t/年(一部、0.5t/年)

# 中期環境目標による 有害物質排出量の削減

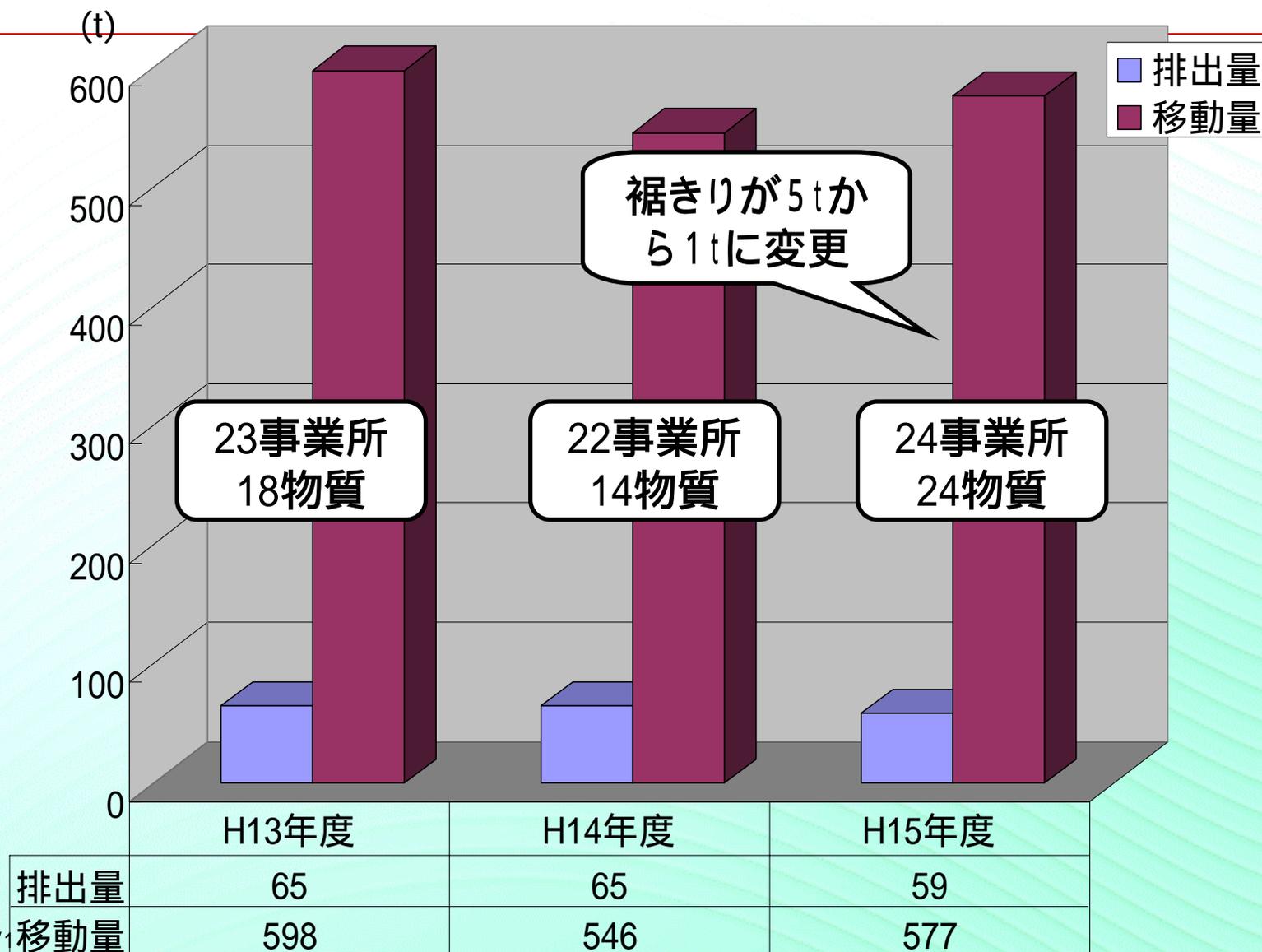
- **現在の目標**
  - 策定年：03年
  - 内容：05年までに00年比
    - 有害物質排出量50%削減
    - PRTR対象物質排出量60%削減

# 国内排出量削減実績

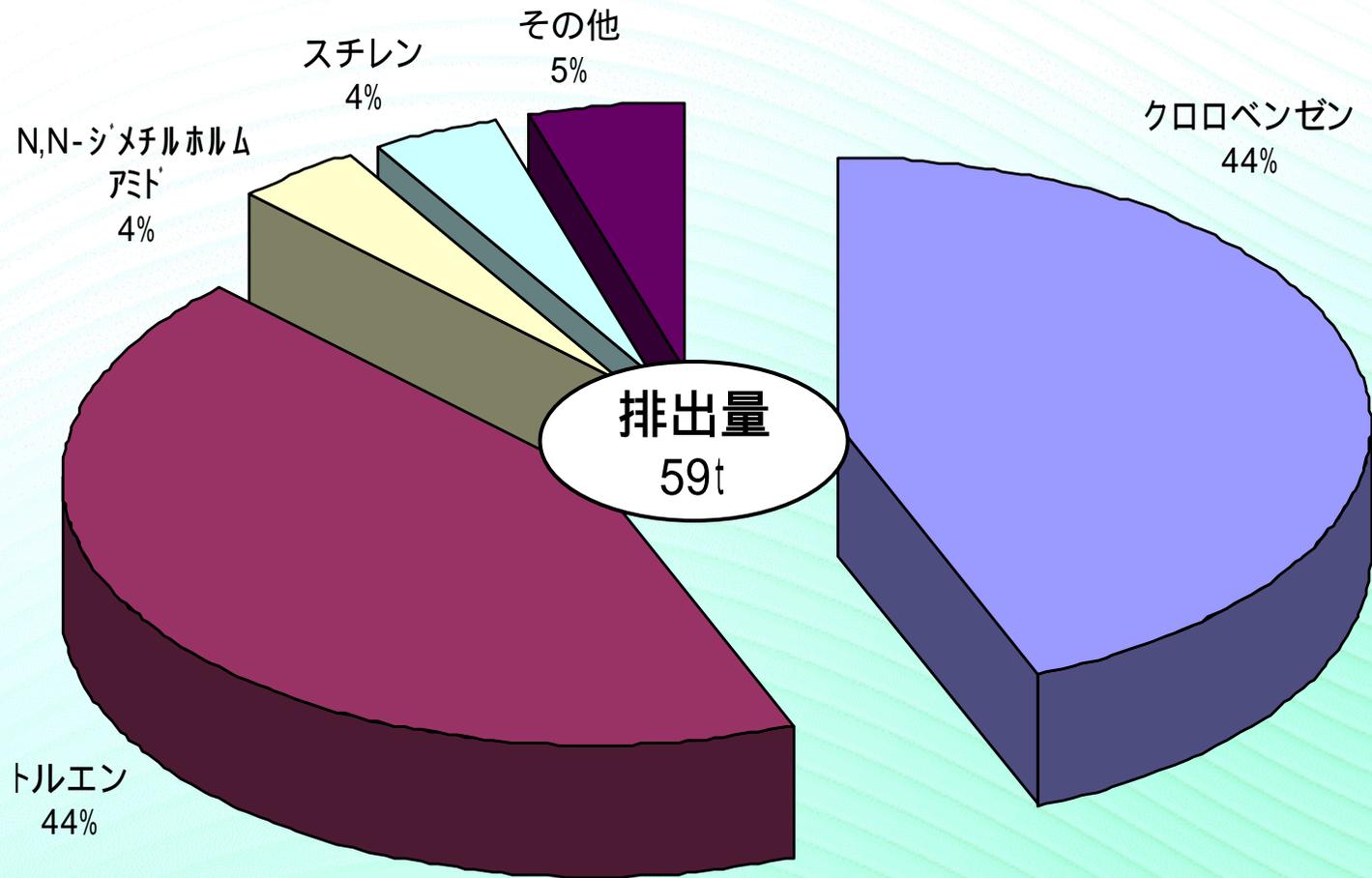


有害物質排出量にはPRTR物質排出量を含む  
社内目標での裾切り

# PRTR法届出実績の推移

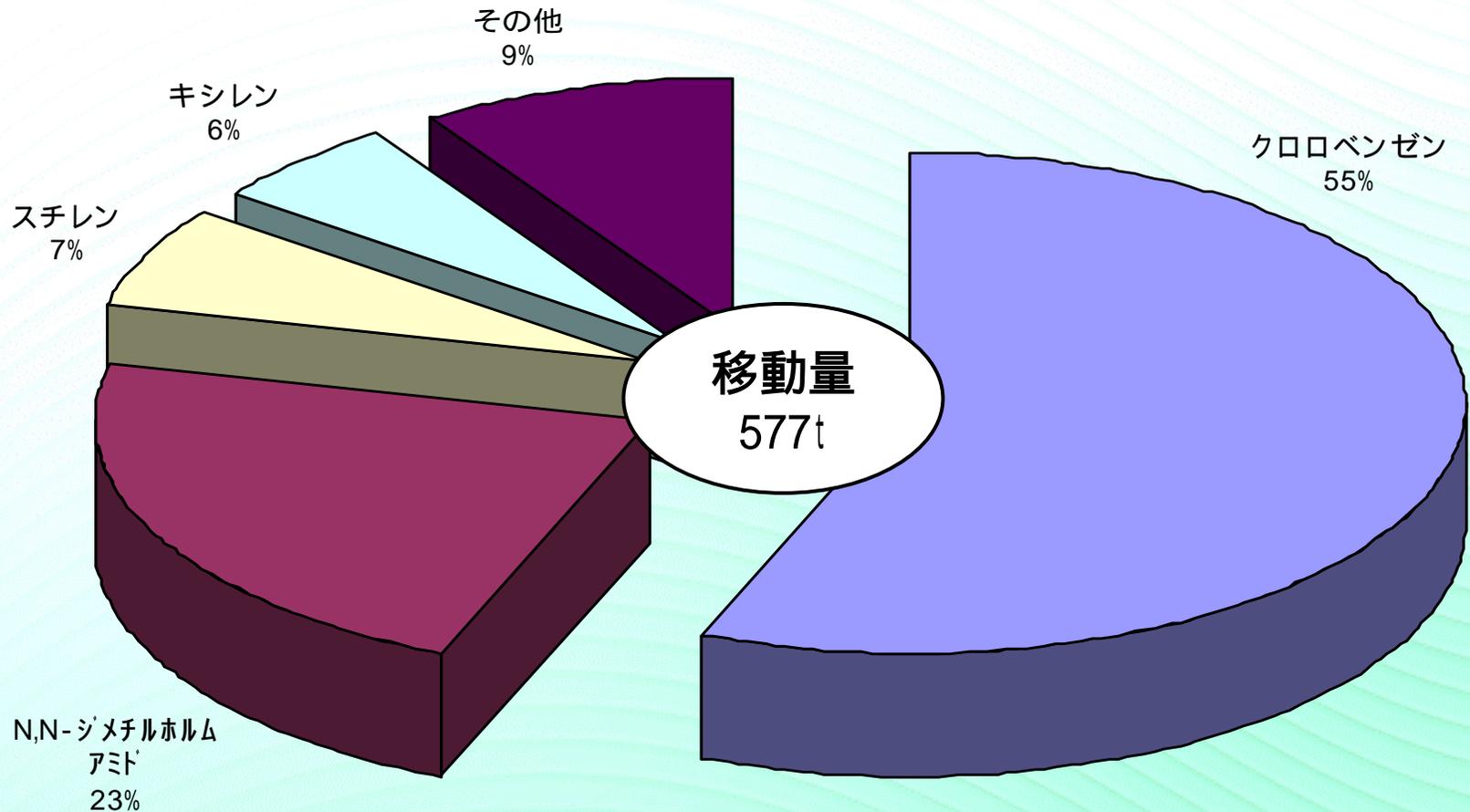


# キヤノンのPRTR法対象物質 の実績 (H15年度排出量)



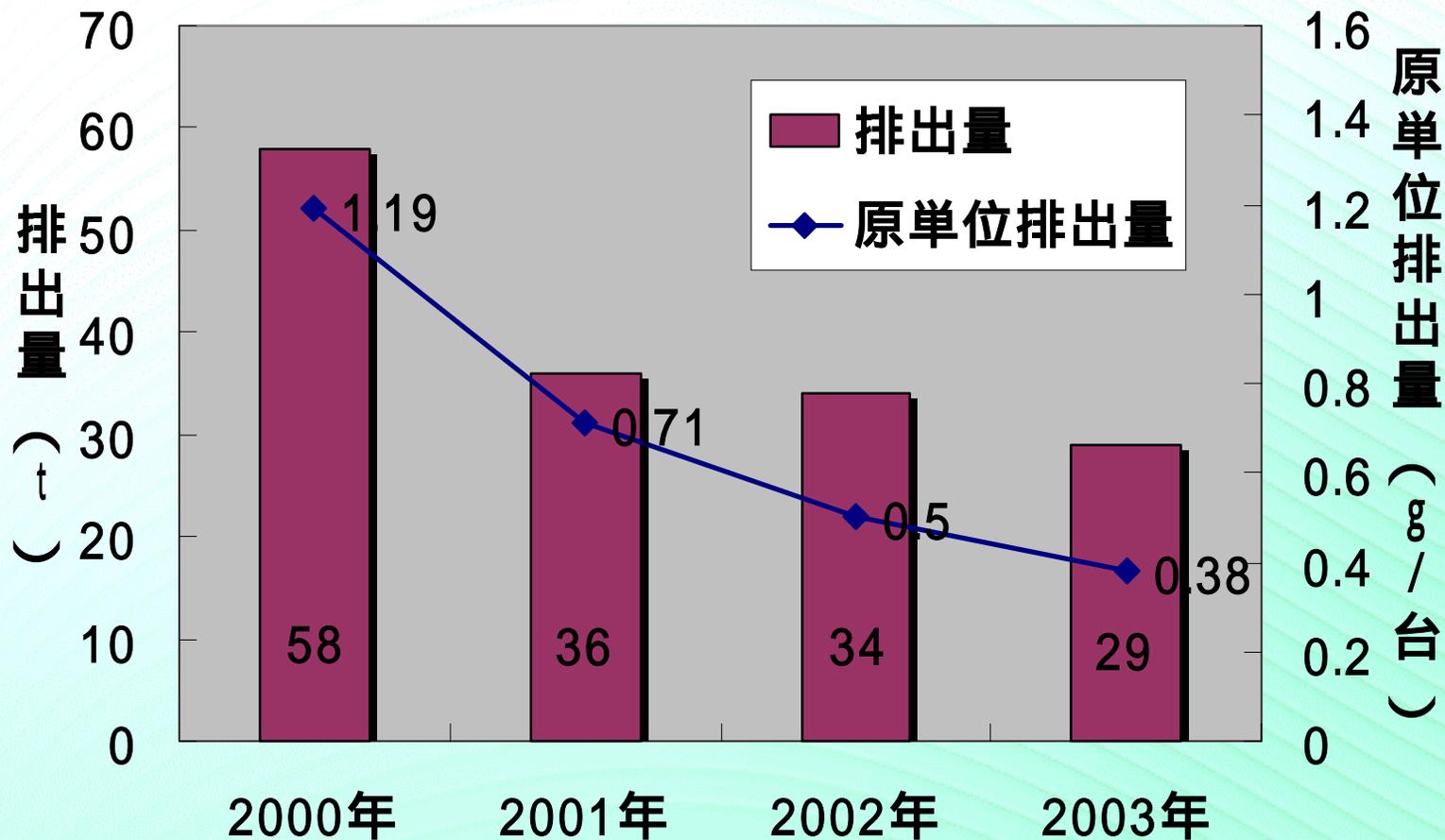
2003.4.1 ~ 2004.3.31

# キヤノンのPRTR法対象物質 の実績 (H15年度移動量)



2003.4.1 ~ 2004.3.31

# クロロベンゼン原単位の削減実績



# まとめ (今後の取組み)

- リスク評価による排出削減物質の優先付け
  - 実際の排出量を基にどの物質の排出が最もリスク大かを評価
- リスクコミュニケーションへの取組み